

連載

鉄道写真家 櫻井 寛

# 列車で行こう!

Let's go by train!

Railway-Photographer Kan Sakurai



## 第6回 「ドイツの超特急ICE」で行こう!



**D** B(ドイツ鉄道)の誇る超特急がICE(インターシティ・エクスプレス)である。最高速度は日本の新幹線、フランスのTGVとタイの時速320kmなので、日、仏、独の高速鉄道はライバルというわけだが、開業順では日本の新幹線が1964年、フランスのTGVが1981年、ドイツのICEは1991年。以降、この3カ国が世界の高速鉄道の技術をリードしてきた。けれども、速いだけが高速鉄道の魅力ではないはず。安全で、乗り心地がよく、室内が広々としていて、掛け心地のいい座席も重要だ。おいしい食事が味わえる食堂車もほしい。こと食事で比較すれば、ドイツ、フランス、日本の順番になる。なぜなら、ドイツのICEには食堂車のほかにパーもある。一方、フランスのTGVは立食のビュッフェがある。残念ながら日本の新幹線には食堂車もビュッフェもない。いや、開業当初の東海道新幹線は12両中2両にビュッフェがあった。山陽新幹線が博多まで延伸

開業すると、乗車時間が3時間を超えることから食堂車が誕生した。グランドひかり号の2階建ての食堂車で、富士山を眺めながら食べたハンバーグのおいしかったこと。いったい誰が新幹線の食堂車廃止を決めたのだろう。愚痴を言っても始まらないが、こと食堂車に関しては、日本の新幹線は最低なのである。その分、私はドイツに行くとICEに乗り、食事をエンジョイする。いつもオーダーするのは、ビールとフランクフルトとプレッツェル。それだけで腹一杯になるほどのボリュームもうれしい。ところでユースホステルだが、ドイツが発祥の国。それだけに非常に充実している。数は多い上、客室も多く、そのほとんどが快適なツインルーム、ファミリールームだ。私の一推しは、ニュルンベルクの古城ユースホステル「カイザーブルク(皇帝の城)」で決まり!

取材協力: 株式会社ワールドコンパス



鉄道写真家 櫻井寛

1954年長野県生まれ。鉄道員を目指し昭和鉄道高校に入学したが、在学中に鉄道写真の魅力にとりつかれ写真家に転向、日本大学芸術学部写真学科卒。出版社写真部に15年間勤務。90年にフォトジャーナリストとして独立し、今日に至る。93年、航空機を使わず陸路・海路のみで88日間世界一周。94年『鉄道世界夢紀行』で交通図書賞受賞。旅した国は95カ国、渡航回数は250回超。写真集『列車で行こう! The Railway World』(世界文化社刊)など著書多数。日本写真家協会、日本旅行作家協会会員。東京交通短期大学客員教授。

